ジャパンカップ出走予定外国馬プロフィール

◆イキートス（IQUITOS）＝ ドイツ

牡 5 歳・鹿毛（ドイツ産・2012 年 5 月 22 日生まれ）
父：Adlerflug ＝ 母：Irika（母の父：Areion）
馬 主 ： シュタル・マリガン
調教師 ： H. グリューシェル
騎 手 ： D. ポルク
戦 績 ： 通算 19 戦 6 勝、2 着 6 回
総獲得賞金： 約 5,830 万円
主な戦績： ’17 ダルマイヤー大賞（独 G1） 1 着
’16 バーデン大賞（独 G1） 1 着
’16 バーデン経済大賞（独 G2） 1 着
’17 バイエルン大賞（独 G1） 2 着
’17 バーデン大賞（独 G1） 2 着

イキートスは昨年のジャパンカップで 16 番人気の低評価でしたが、後方の位置取りから直線では内へ切り込みながら伸びて一時は 2 番手を窺う勢い。最後は脚色が鈍り 0.6 秒差の 7 着に敗れますが、見せ場十分のレース内容と言えるでしょう。2016 年を日本で終えた同馬は、この年のドイツ年度代表馬に選出されています。

その後は休養に入り、5 歳の今年は 5 月 28 日のバーデン経済大賞（バーデンバーデン、独 G2、芝 2,200m）で初戦を迎えます。半年ぶりのレースとなったここは 3 番人気で、鞍上は初コンビとなるアンドレアシュ・シュタルケ騎手。6 頭立ての 5 番手をラチ沿いに進み、直線は猛然と追い込みますが、先に抜け出したギニョールにクビ差届かず 2 着でした。

次いで 7 月 1 日のハンザ大賞（ハンブルク、独 G2、芝 2,400m）もシュタルケ騎手で今度は 1 番人気に推されますが、重馬場の 5 頭立て最後方から直線では大外を伸びるもののチンギスシークレットに 3 馬身 3/4 差の 2 着まで。2 番人気のギニョールは 4 着でした。

2 戦連続で 2 着となりますが、続く 7 月 30 日のダルマイヤー大賞（ミュンヘン、独 G1、芝 2,000m）で鬱憤を晴らします。ここはシュタルケ騎手が今年の独ダービー2 着馬で 1 番人気のエンジョイヴィジャイ（4 着）に騎乗したため、イタリア出身のダニエレ・ポルク騎手が初めて手綱を握りました。11 頭立て 4 番人気でしたが、後方 2 番手から直線では内を突いて直線半ばで先頭に立つと、ゴドルフィン所属でイギリスから遠征したベストソリューションに 1 馬身半の差をつけ、昨年のバーデン大賞に次ぐ G1 タイトルを手にしました。

続く連覇の懸かった 9 月 3 日のバーデン大賞（バーデンバーデン、独 G1、芝 2,400m）は、シュタルケ騎手に戻って堂々の 1 番人気。6 頭立ての最後方からラチ沿いを伸びますが、勝ったギニョールには 2 馬身半の差をつけられました。この後は 10 月 1 日の凱旋門賞（シャンティイ、仏 G1、芝

2,400m）に向かい、現地で12番人気、日本で14番人気とダークホースの位置付け。内の12番手に包まれる展開から、4 コーナーで外に持ち出して直線を迎えると、しぶとく伸びるもののエネイブルから7馬身差の7着。同じくドイツから参戦したチンギスシークレットにアタマ差遅れました。

こうして迎えた前走11月1日のバイエルン大賞（ミュンヘン、独G1、芝2,400m）はフォワ賞優勝馬のチンギスシークレット（3着）と今年の仏ダービー2着馬ヴァルトガイスト（4着）が1番人気タイ、次いでギニョールが人気を集め、イキートスは9頭立ての4番人気。レースでは、いつも通り最後方に構え、直線は大外から一気に伸びますが、逃げたギニョールを最後までかわせず、クビ差2着でした。

陣営は早くから2度目のジャパンカップ挑戦を視野に入れており、昨年を上回る成果を得られるか注目されます。

ドイツで生産（生産者は E. ブフマン夫人）され、ペルー北東部、アマゾンの北の入り口となる都市から命名されたイキートスは、父が2007年のG1独ダービーなどに優勝したアドラーフルーク（その父インザウィングス、大種牡馬サドラーズウェルズの直孫）で、母はドイツで4勝を挙げたイリカ。イキートスはアドラーフルークの2世代目の産駒で子供には2,400m向きの馬が目立ち、また、母系は1世紀以上もドイツに根付いている血統で、遠戚には史上初めて英愛の両ダービーを制したオービーがいます。

イキートスは2歳時未出走で、3歳の2015年4月の未勝利戦（ホッペガルテン、芝1,800m）でデビューしますが、8馬身以上離された5着に敗れます。しかし、続く5月の3歳条件戦（ハノーファー、芝1,600m）では後方から追い込んでハナ差で初勝利を飾りました。次いで、距離を2,000mに延ばしたバーデンバーデン競馬場の3歳上ハンデ戦（6月）では、後方から追い込んで2着に大差つける完勝。さらに8月の3歳上ハンデ戦（デュッセルドルフ、芝1,700m）もクビ差の勝利を収めて3連勝を達成しました。重賞初挑戦となった2週後のクレフェルト銀行大賞（クレフェルト、独 G3、芝 2,050m）は、最後方から追い上げましたが、独ダービー2 着馬パレスプリンスにアタマ差まで迫ったところがゴールでした。これが初めての重馬場でしたが、最後の200mの伸びは目立ち、ここからしんがりから追い込むスタイルに磨きをかけてゆくことになります。

その後、8カ月のブランクを挟んだイキートスは、昨年4月の準重賞ダールヴィッツ賞（ホッペガルテン、芝2,000m）で4歳シーズンを迎え4着。次いで5月のバーデン経済大賞は、最後方から力強い末脚を披露してアーティキュスを2馬身差交わしてデビューから7戦目で初重賞制覇を飾りました。イキートスはこの後、7月のハンザ大賞では2014年の豪G1メルボルンカップ覇者プロテクショニストと同じ60kgを背負い、同馬に次ぐ2番人気に支持されましたが、後方から追い込むものの、同馬に3馬身1/4差及ばず2着でした。G1初挑戦となった4週後のダルマイヤー大賞は、フランスから遠征して勝利を収めた1番人気エリプティクから1馬身差4着。

次いでバーデン大賞に出走し、相手強化のここは 6 番人気でしたが、いつものように最後方に位置したイキートスは最終コーナーで馬群の最内に取りつき、残り200mで先頭に立つとナイトフラワーを2馬身3/4突き放して優勝しました。この後日本行きを視野に入れて自国の秋シーズンに残る2つの G1 に出走しました。9月のオイロパ賞（ケルン、独 G1、芝 2,400m）は連覇を達成したナイトフラワーから3馬身半差の5着。スタート直後に他馬と接触する不利が応えたようで、最後方から伸びを欠きました。そして、ジャパンカップの前走となる11月のバイエルン大賞はマイペースの先行策をとった

最低人気の伏兵ギニョールを捕らえきれず 4 馬身 1/4 差の 4 着でした。

2017 年ダルマイヤー大賞

(c) Marc Rühl

ジャパンカップ出走予定外国馬関係者プロフィール

■ イキートス（IQUITOS）

● 馬主：シュタル・マリガン（Stall Mulligan）

シュタル・マリガンは共有馬主名義で、ドイツ西部のケルンやトリーアだけでなく、ルクセンブルクにも会員がいる。マリガンは、仲間内のゴルフでスタートの第一打を失敗しても、ペナルティー無しで第一打を打ち直せる“マリガン”ルールに由来する。

これまでに 4 頭を所有し、その内本馬イキートスを含む 3 頭は現役で、グリューシェル調教師に預託している。もう一頭のビディキは 2 戦未勝利ですでに引退しているが、その父は 1998 年のフォワ賞を制した日本産馬リムノス（その父ヘクタープロテクター；ノーザンファーム産）。

● 調教師：ハンスユルゲン・グリューシェル（Hans-Jurgen Groschel）

1943 年 6 月 16 日生まれ、旧東ドイツでチェコとの国境に近いドレスデン出身。父ハンスおよび兄エックハルトも調教師で、前者は通算 1,086 勝、後者は 822 勝を挙げるなど、競馬一家に育つ。1961 年からリヒャルト・コルトゥム、その 3 年後からは父ハンスのもとで研鑽を積む。1972 年に引退した父の厩舎を引き継ぐと、調教師として翌年 4 月 15 日に初勝利を挙げる。1976 年の DDR 大賞やポーランドセントレジャーなどを制したファルケンゼー、1984・85 年にベフライウング賞を連覇したヴィトルドなどの名馬を手掛けた。

ドイツが再統一された 1990 年にドレスデンからハノーファーに拠点を移すと、アヤノで 1997 年の G2 ミュラーブロート大賞、ヴァレリアで 2006 年のフュルステンベルクレネン、2007 年のドイツェンアインハイト賞の G3・2 勝、ヴァジマーで 2012 年の G2 ディアーナトライアルなどの重賞を勝利。2010 年 8 月には通算 1,000 勝を達成している。これまでのリーディング最高位は 305 戦 48 勝を挙げた 2012 年の 4 位で、2013 年は 247 戦 34 勝で 8 位、2014 年は 245 戦 30 勝で 7 位、2015 年は 178 戦 22 勝で 11 位、昨年は 194 戦 19 勝で 16 位。

今年は本馬イキートスで制した G1 ダルマイヤー大賞や、シャイウィッチで連覇を果たした G3 フランツギュンターフォンゲルトナー記念など、11 月 16 日現在、185 戦 25 勝で 8 位。

● 騎手：ダニエレ・ポルク（Daniele Porcu）

1983 年 3 月 3 日生まれ、イタリアのローマ出身。高校卒業と同時に、カパンネッレ競馬場に厩舎を構える父サルヴァトーレのもとで見習騎手となる。1999 年 6 月 20 日にマルティニ・コッリドニア競馬場で初勝利。その後ノヴァラを経て、ミラノに拠点を移して活躍の場を広げると、2004 年に 647 戦 76 勝でイタリアでのリーディング最高位となる 16 位につけ、2008 年にはエステホでローマ賞を制して G1 初勝利を挙げた。

2009 年からはドイツ南西部を拠点に、オーエンクエレ牧場の主戦騎手として騎乗し、その年は独 G3 州都デュッセルドルフ大賞を含む 207 戦 22 勝でドイツのリーディング 16 位、2010 年は 221 戦 15

勝で 22 位。翌年にはサシャ・スムルチェック厩舎に移り 326 戦 35 勝で 12 位、2012 年 301 戦 24 勝で 18 位。さらに、2013 年にはアンドレアシュ・シュタルケ騎手に次ぐペーター・シールゲン厩舎の専属騎手となり、441 戦 54 勝で一気に 4 位へと躍進する。その後も 2014 年は 449 戦 47 勝で 7 位、2015 年は 443 戦 54 勝で 5 位、昨年は 398 戦 45 勝で 7 位とトップ 10 圏内を維持。

今年は 7 月に本馬イキートスでダルマイヤー大賞を制して、ドイツ移籍後初の G1 タイトルを手にした。その他、独 G3 バーデンビュルテンベルクトロフィーなど、11 月 16 日現在、419 戦 50 勝で 4 位。また、9 月にはトルコのヴェリエフェンディ競馬場で G2 インターナショナルトプカピトロフィーを制している。

今回の来日が日本での初騎乗だが、2008 年にはエステホで香港カップに挑み 13 着。